

私たちの宗旨は、浄土真宗です

【本尊】

南無阿弥陀仏（本願の名号）

阿弥陀如来像（方便法身尊形）

【正依の經典】

『仏説無量寿經』（大經）

『仏説觀無量寿經』（觀經）

『仏説阿弥陀經』（小經）

【宗祖】

親鸞聖人（愚禿釈の親鸞）

【宗祖の名著】

顕浄土真実教行証文類（教行信証）

【宗派名】

真宗大谷派

【本山】

真宗本廟（東本願寺）

高田教区御遠忌テーマ

『私はどこで生きているのか』
～たずねよう真宗の教えに～

企画：高田教区靖国問題研究班
発行：真宗大谷派高田教区教化委員会
〒943-0892 上越市寺町2-24-4
☎025-524-3913 Fax025-524-2645
URL <http://www.takada-kyoku.jp>
E-mail takada@higashihonganji.or.jp
2016年6月発行

ひょうがむよう
兵戈無用とは？

私はどこで生きているのか



※「必勝名号」
（第一組圓照寺蔵）

仏の遊履したまうところの国邑丘聚、化を蒙らざるはなし。
てんげわじゆん にちがつしやうみやう
し。天下和順し日月清明にして、風雨時をもってし災厲起
こらず。国豊かに民安し。兵戈用いることなし。
こくおうくじゆ け ふうとき さいれい
くにゆた たみやす ひやうがもち

『大無量寿經』卷下（真宗聖典七十八頁）

ひょうがむよう 兵戈無用

「社会の事と宗教は関係ないじゃないか？」
違います。宗教と社会は関係ないわけではなく、実は社会と宗教は密に隣接しあっています。今回は、私たち「真宗」という視点から社会と関わる仏教の言葉をいただきますと思います。

こくぶんあん ひょうがむよう 『国豊民安 兵戈無用』

（国豊かに民安し 兵戈用いること無し）

『大無量寿経』巻下

- ・兵……軍隊
- ・戈……武器（戈とは左下図の武器）
- ・無用…用いる必要はない

私たち、浄土を願う者にお釈迦様が説かれた言葉です。仏の願う国とはどんな国か。それは、富貴貧窮を問わず、あらゆる道具を武器として用いない、無駄に人や動物を殺す世界とは正反対の世界です。

しかし、私たちはその願いにずっと背を向け続けています。振り返れば、私たち人間の歴史はどこまでも、金や権力や名誉を欲して、自分たちに都合のいい社会を作るために武器を用いて、殺し、殺させしめてきた戦争の記憶にあふれています。

日本に住む私たちの歴史にたずねると、「第二次世界大戦」があります。人によって「太平洋戦争」「大東亜戦争」といろんな呼称のある戦争ですが、「お国の為に」を合言葉に国家は国民を戦う方向に仕向けました。宗教諸宗派もまた国家に恭順し、「靖国」の名のもとに若者を戦地に送り出しました。私たち真宗大谷派も真実を捻じ曲げ戦地に多くの人間を送り込んだことは、許される

ことではありません。

他を抹殺して愧じるのではない、すべての戦闘行為を否定し、さらに賜った信心の智慧をもって、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまないことを決意して、ここに「不戦の誓い」を表明するものであります。

さらに私たちは、かつて安穩なる世を願い、四海同朋への慈しみを説いたために、非国民とされ、宗門からさえ見捨てられた人々に対し、心からなる許しを乞うとともに、今日世界各地において不戦平和への願いに促されて、その実現に身を捧げておられるあらゆる心ある人々に、深甚の敬意を表すものであります。

私たちは、民族・言語・文化・宗教の相違を越えて、戦争を許さない、豊かで平和な国際社会の建設にむけて、すべての人々と歩みをとにもすること誓うものであります。

これは、真宗大谷派の議会にて可決された「不戦決議」です。私たちが願うのは武器を持たずに出会う事の出来る社会です。それがいつ実現できるのか、社会と宗教の関わりにおいて私たち一人一人が問いかけられています。

戈の図

